

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

7日目【2000年4月20日】

ここで曹操と諸葛亮にあう〈宝鷄〉前半

西安のホテルには、朝食にパンがあった。しかしここ宝鷄では朝から中華ビュッフェ。私は食に関して好き嫌いはなく、何でも食べられると自負していたが、さすがに毎日の中華料理には辟易し、食べるのが嫌になる。今朝は、中華粥を軽めに、お腹に入れた。

これから、西に行くとイスラム料理圏内に入り、羊肉が主食になる。羊肉が苦手な私は、今後益々頭を痛めそうだ。今日は宝鷄市内観光に行った。ホテルの旅行会社に、観光ガイドブックを指して、「ここと、ここに行きたい」「日本語通訳はあるか?」「タクシーをチャーターしたらいくらか?」等を、筆談を交えて交渉した。

宝鷄は西安に次ぐ陝西省第二の都市、人口は30数万人を超えている。しかし日本人を含め、観光客があまり来ないようだ。決まった観光ツアーはなく、自分でアレンジして交渉すること。ホテルの旅行会社なら、騙される事は無いかと思っただが、それでも交渉には疲れた。

三国志を愛読していた私は、以前から宝鷄の古大散関に行きたいと思っていた。ここは周囲の地形が険しく、麓と山頂の高低差が1000メートルに及ぶという交通の要所。四大関所の一つで、三国志で有名な劉備玄德が建国した蜀への道の難所として有名である。古来より兵家必争の地であった。



古大散関



宝鷄旅行社の劉さん(左)・観光ガイドの馬さん(右)



劉さんの通勤用自転車

御正忌法要を
私を反省し、
煩惱だらけの
いてしまい、
事に、心が向
ける給湯器の
三十年使い続
大切な法要に心血注いで集中しなくてはなりません、それ以上に、



『給湯器のお陰で法要料理が作れています』

開宗八百年慶讃法要が勤められましたので、八百二年になります。御正忌法要は宗祖親鸞聖人の祥月命日のお勤めです。八百年続く

住職レター

一月十一日(土曜日)、無事に御正忌法要を勤め終えたのですが、実は朝から、トラブル続きでした。法要日前後の厳しい冷え込みが影響したのか、台所のお湯が出ない。給湯器の凍結防止処置はしていたので、問題ないはず。門信徒会館の給湯器の電池を交換するも反応なし。困り果て、約一時間後に再度試みると、ようやくお湯が出て事なきを得ました。

問題はそれだけでなく、庫裏の天台所の給湯器からお湯が出ない。こちらの給湯器は業務用なので、ガス会社に来て貰いました。寒さのせいか、給湯器の性能が落ちてきているとのこと。取り合えず、当日の法要で使えるように応急処置をしてもらいました。ガス会社の方が、「給湯器を設置して二十七年経つてます。交換部品も無いので、そろそろ新しい給湯器に替えられた方が・・・」と。

給湯器の寿命は、約三十年でしょうか。パソコンやスマホは、四五年、長く使ったとしても七、八年。冷蔵庫や洗濯機は、十年二十年か。本堂にある仏具の寿命は、よく分かりませんが、最低でも百年、中には、二百〜三百年使い続けているものもあるでしょう。

一方、浄土真宗が開宗されて、八百年超、正確には一昨年、立教

Buddhist ruins exploration record at silk road
シルクロード仏教遺跡探訪記

7日目【2000年4月20日】 全37日間
ここで曹操と諸葛亮にある〈宝鷄〉後半

三国志の英雄の一人、曹操が諸葛亮孔明とここ古大散関で争っている。今回は残念ながら行けなかったが、諸葛亮孔明が出陣表を奉って出陣し、死んでなお後に「死せる孔明、生ける仲達（魏軍の大將・司馬懿のこと）を走らす」と言われる、有名な合戦場である五丈原、そして諸葛廟もこの宝鷄の南にある。

項羽と劉邦もここ古大散関に来ている。それを思うと胸が高鳴った。当時の武将が感じたことを体感しようと思い、観光ガイドと一緒に高台まで歩いた。およそ20分くらい、楽ではなかった。この辺りの高台から曹操も戦況を見つめていたかと思うと、感無量だった。観光客が来ない宝鷄に敢えて立ち寄っただけのことはあった。



金台観の全景

その後、道教の宗教施設である金台観、中華民族の祖先とされる炎帝を祀った御堂へ行った。

また宝鷄は、古代周文明（約三千年前）の中心地で、多くの遺跡が発掘され、青銅器が多数出土している。その出土品を沢山展示してある青銅器博物館へも行った。

夕方ホテルに帰り、明日の出発準備に取り掛かった。鉄道で約3時間の移動である。チケットはホテルの旅行会社に依頼しておいた。外国人観光客用の『軟座』シートが取れたので、昨日より楽な移動が出来ると思う。



金台観の門



炎帝を祀った御堂

「柏原春季彼岸会」(柏原説教堂)
三月 十四日(金)
昼席・夕席
講師 広幡康祐師(呉市安浦町信楽寺)



講師 三浦真証師(奈良県光明寺)
* 仏教婦人会主催法要
* 仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催
八日(土)
午前10時、朝席
午後一時半、総会
午後二時、昼席

「宗祖聖人月忌」
門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)
二月 十六日(日)
午後一時半、
* 毎月十六日に本堂において勤めております。
「仏教婦人会報恩講」(善教寺本堂)
三月 七日(金)
午後一時半、追悼法要
午後二時、昼席

今後の法要スケジュール